

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	岩井屋こども館 放課後等デイサービス		公表日 2026年 3月 30日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	園庭、屋内において広さを活かし、のびのびと活動が出来るようスペースの使い方を工夫しています。	児童発達と同じ空間なので長期休み中のスペースの検討をしていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	3		個別に対応が必要なお子さんに対して職員が不足していると感じます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	カードやホワイトボード等を活用して情報伝達等の配慮を行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	日頃から清掃、除菌、換気に注意をはらいます。アコーディオンカーテンで仕切られ、遊びや活動をする、学習をする画に分かれています。	個別の部屋があるとより良いと思います。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	必要に応じてパーティションを活用して個別の空間を用意しています。	個別の部屋があるとより良いと思います。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2		職員全員が参加し、業務改善に努めます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	保護者向けの評価表の他に連絡ノートや送迎時に聞き取りを行っています。	保護者の方からのご要望に迅速に答えられる様に努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2		職員間で話し合う時間が不足しています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	第三者評価は行っていません。	必要に応じて実施を検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	2	研修参加後は研修資料の配布、回覧等をして周知を図っています。	出来るだけ多くの職員が研修等に参加して職員のスキルアップにつなげていきたい。 法人内での研修を充実させていきたい。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	1	当事業所ホームページにて公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	1		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1		職員全体で共通理解をするための検討を適切に行う必要がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1		職員間でしっかりと共有出来るようにしていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		それぞれのお子さんの特性、状況に合わせ5領域の支援を踏まえて「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域連携」等の支援内容を設定しています。	

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	2	お子さんのやりたいことを聞きながら立案しています。	チームで立案していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		季節やイベントの活動を取り入れています。飽きないように楽しく取り組める工夫をしています。	固定化した方が良いお子さんもいるので活動に選択肢を設けています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		自分らしさを大切に、特性に合わせた活動を設定しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	3		ルーティン化されず、共有不足を感じます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	3		その日の振り返りを全員でするのが難しい現状です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の利用記録を基に、支援の検討をしたり、改善に繋がっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	1	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		お子さんが活動を選択したり、意思決定する機会をつくっています。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		必要な関係機関と連携をしています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		年間予定表やお便りをいただき、行事や下校時刻を把握出来ています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。				必要に応じて地域の児童発達センターとの連携を図っていきたい。スーパーバイズや助言を受けたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4	交流は行っていません。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		部会、在宅福祉サービス連絡会等に参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡ノートの活用、送迎時、電話等で状況を伝え合い共通理解を図っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	ペアレントトレーニング等は行っていません。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明を行っています。利用している中でも不明点や変更時は説明を行います。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		保護者の方の意向を確認し、支援計画に繋がっています。		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		支援計画の内容を説明して同意をいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		悩みの相談など個別に対応しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4	保護者同士での交流する機会は設けていません。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	1	苦情受付担当を設置して、掲示上周知をしています。	適切に対応できる整備が必要と感じます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		毎月のお便りにて必要事項を伝えたり、活動の様子を掲載しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		取り扱いには十分注意をしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		言葉で伝える事が難しいお子さんにも、絵カードや文字での提示など意思表示が出来るような機会を作っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	見学や実習の受け入れ等をして、地域に向けて開けた風通しの良い施設づくりを心掛けています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1		マニュアルに関して職員、保護者の方に周知が不足していると感じます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		利用前、1年ごとに保健調査票に記入していただき、お子さんの健康状況を確認しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4	現在、アレルギーのあるお子さんは利用していません。	必要に応じて対応していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	安全計画を作成し、安全管理を十分行なったうえで支援しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	2		保護者との連携が図られるよう周知していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1	ヒヤリハットの事例が発生した時は報告書を作成し、早期に対策を検討し、共有に努めています。	全体で共有していく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	1		職員全体での研修を実施していきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		4	対象のお子さんはいません。	今後、必要な場合には十分に検討し、事前に丁寧な説明を行い、身体拘束の適正化に努めます。	